

# 第 5 学年算数科学習指導案

平成 23 年 6 月 22 日 (水)

## 1. 単元名 合同な図形

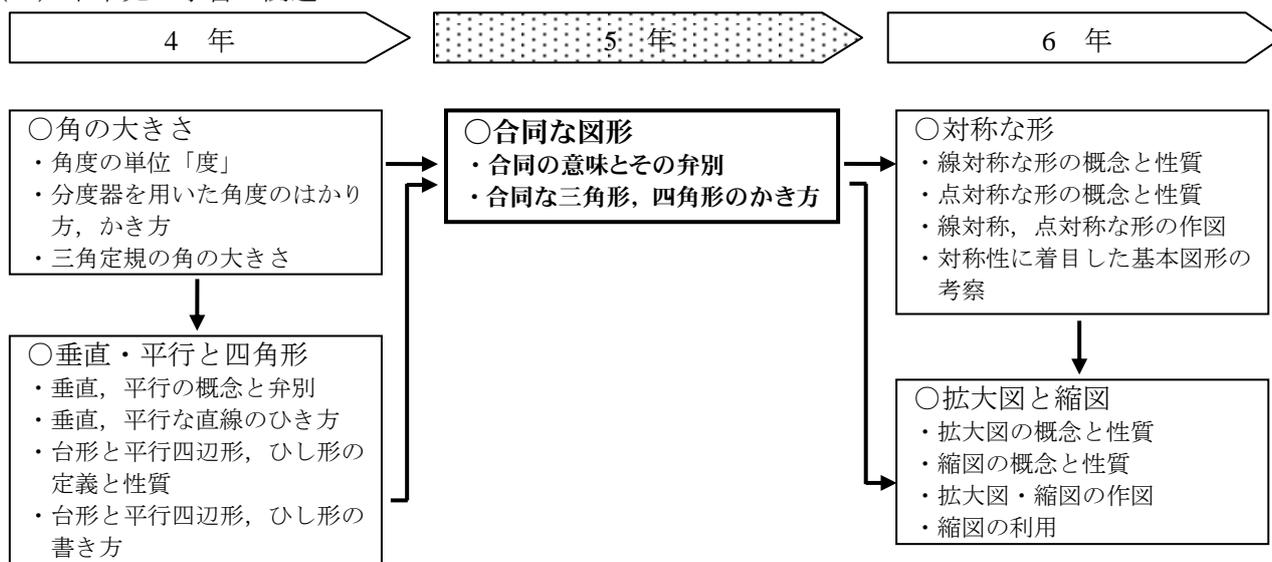
### 2. 単元の目標

○図形の合同の意味や合同な図形の性質などについて理解し、合同な図形をかくことを通して、平面図形についての理解を深める。

関心・意欲・態度	・合同という観点で、図形の性質を見直したり、対角線に着目してできる図形をとらえたりして、学習に生かそうとする。
数学的な考え方	・合同という観点から、図形の大きさを決める要素について考え、図形の性質としてまとめたり統合的にとらえたりすることができる。
技能	・必要な、対応する辺の長さや角の大きさを用いて、合同な図形を弁別したりかいたりすることができる。
知識・理解	・図形の合同の意味や合同な図形の性質について理解する。

### 3. 単元について

#### (1) 本単元の学習の関連



#### (2) 教材について

##### ①前学年までの既習事項

平面図形について、第 3 学年では三角形について二等辺三角形と正三角形の定義、性質や作図について学習してきた。また、角については 2 本の半直線が作る平面図形としての角を定義し、2 つの辺の開き具合によって形が違うなど、形としての角の概念について基本的なことを学習してきた。第 4 学年では、回転による反直線の開きの量としての角を扱っている。また、四角形については、台形、平行四辺形、ひし形等の定義、性質や作図について学習してきた。また、合同な図形については、折り紙を折ったり、切ったり、色板並べをする中で、また、正方形や長方形、二等辺三角形の学習の際には、対角線や線対称の軸で 2 つに切ると、形も大きさも同じ図形がで

きるといった経験をしてくれている。

## ②本学年での指導内容と留意点

学習指導要領には、5学年の合同の内容について以下のように書かれている。

### 第5学年C 図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。

イ. 図形の合同について理解すること。

ウ. 図形の性質を見だし、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。

本単元では、既習事項を踏まえ、合同という視点で図形を考察していく。

はじめに、図形を重ね合わせる活動などを通して、合同の定義をおさえる。さらに、合同な図形を構成要素に着目して調べていき、「ぴったり重なる」のは対応する辺の長さや角の大きさが等しいためであると、数学的にとらえられるようにする。

さらに、4年時に学習した台形や平行四辺形、ひし形を対角線で分解してできた三角形が合同かどうか調べ、なぜ合同になるのかを考えることで、平面図形の性質を見直し、理解を深めていく。

次に、合同な三角形をかく活動を通して、すべての辺の長さや角の大きさを使わなくても三角形の形や大きさをきめられることに気付かせていく。

いずれの段階でも実際に図形を操作したり分解したりする活動を十分行い、図形に対する感覚を磨いていくことで、次学年の「対称な形」や「拡大図と縮図」の学習の基になる力を確かなものにしていきたい。

## 4. 指導の工夫 ～楽しく基礎・基本から活用力まで身に付けさせるために～

### (1) 教材・問題の工夫

#### ①児童の主体性を引き出し、はてなが生まれる教材・問題 意欲をもたせる

プランAの学習では、教科書とは異なる問題『○枚の正方形を組み合わせると、ちがう形は何種類できるでしょうか』で学習を進める。

教科書では並べられた三角形と四角形の中から合同な図形を見つけるという設定だが、この問題は異なる図形を作るという設定である。

この問題は念頭操作だけでは解決することが難しいので、教科書の問題以上に操作的活動を促すことが出よう。また、「作る」という活動を好む児童は多い。その点からも児童の興味・関心を高めることができるものとする。授業で行うのは2枚から4枚の場合だが、枚数を増やせば作ることのできる形の種類はさらに増える。このようなオープンエンドの問題は、授業後に児童の主体的な追究を期待することができるだろう。

このような魅力のある問題だが、欠点もある。まず、三角形や四角形に比べ、複雑な図形を扱うため、重ねて「直接比較」をすることはできるものの、間接比較や測定を使っての問題解決は難しい。また、次時のねらいは「対応する辺や角」について理解することだが、この問題で出てくる形では「辺」や「角」に着目させることは難しい。

今回の授業研究で、こうした楽しさを重視した問題を使うことの効果を検証したい。

#### ②算数・数学の魅力を感じられる教材・問題 多様な考えに触れる

三角形の合同条件「二辺とその間の角」「一辺とその両端の角」を発見、証明したのは、紀元前

600年頃にギリシアに生まれたターレス（タレスとも言う）である。彼は三角形の合同を使って、間に山があつて直接は測ることのできない2つの地点の距離を測ったり、海に浮かぶ船までの距離を測ったりしたと言われている。

単元の終わりには、ターレスが解いたという問題に挑戦させることで、児童の興味・関心を高めたり、生活への活用を促したりしていきたい。

## (2) 学習活動・学習形態の工夫

意識調査の結果、半数近くの児童が算数を「きらい」「どちらかというときらい」と答えている。そのため、今回はどの授業でも操作的活動を取り入れ、算数の楽しさを感じさせたいと考えた。

また、きらいな理由としては、「苦手だから」「むずかしいから」と答えている児童が多い。一つの問題にじっくり取り組むよりも、簡単な問題から難しい問題へとスモールステップの展開にする方が、つまずきを感じずに取り組めるのではないかと考えた。

### ①学習への関心を高め段階的に能力を高める算数的活動 わかる喜びを味わわせる

プランBでは、授業の始めに「カード合わせゲーム」を2回行う。操作的活動を行うことで、合同の意味をより深く理解させたいと考えた。

1回目のゲームは、三角形の形に切ったカードを使うことで「直接比較」を体験させる。2回目は、紙に書かれた三角形を切らずに使うことで「間接比較」や「測定」の方法を体験させる。

このように段階を踏んだ取り組みやすい活動を展開することで、児童のつまずきを防ぎ、学習への主体性を高めながら、合同の意味を体験的に理解させていきたいと考えた。

### ②学習したことを活用し理解を深める算数的活動 次の学習への意欲を高める

プランCでは、合同について学習した後に、その知識を活用してプランBの2回目のゲームと同じ「カード合わせゲーム」を行う。学習したことを定着させるには、学習内容を活用する場面を作ることが効果的だと考えられる。その場が「楽しい」ものであればあるほど、児童は進んで学習内容を活用し、より深く理解できるだろうと考えた。

また、他のプランでも学習したことを活用する場を設けた。「学んだことを活用することで、問題を間違いなく解くことができる」という経験を重ねることで、活用することのよさを感じ、活用する習慣がついていくのではないかと考えた。

### ③関心を高め、はてなが生まれる算数的活動 意欲をもたせる

プランAの問題『○枚の正方形を組み合わせると、ちがう形は何種類できるでしょうか』はノートなどに図をかいても考えることができるが、今回は正方形のカードを使って実際に操作しながら解決させることにした。操作的活動を行うことで実感を伴った理解をさせることができると考えた。

## (3) 評価の工夫

### ①学習の見通しをもたせ自分の成長を感じさせる「合同マイスターカード」

学習の見通しをもたせ、最終的な目標地点を明らかにすることは、毎時間の学習を充実させることにつながるだろうと考え、「合同マイスターカード」を作成した。このカードには、簡単な自己評価（毎時間）と文章による振り返り（単元の初め・途中・最後の3回）の2つのことを記入していく。指導者は、児童の自己評価を見取り、指導計画の修正や個別指導を検討していく。

### ②つまずきを想定し対応する手だてを事前に用意

自力解決や適用問題に取り組んでいる時には、考えようとしないう児童ややり方の思いつかない児

童の出ることが予想される。短い時間で見取り，適切な指導ができるよう，つまずきに応じて助言や支援の仕方を事前に準備しておく。

(指導案の中では、「→T」の形でつまずきに対する支援を記入した。)

5. 指導計画 (9 時間扱い 本時は 1/9)

時	目標	学習活動 (・) と指導の留意点 (☆)	主な評価規準
<b>① 合同な図形 【6 時間】</b>			
1 (本時)	○「合同」の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>用語「合同」の意味を知る。</li> <li>合同な図形を弁別する。</li> </ul> ☆今単元では「形も大きさも同じ図形」を調べていくという課題意識をもたせるために、算数的活動を工夫する。	<b>関</b> 形や大きさが同じ図形に関心をもち、合同な図形の調べ方を工夫して考えようとしている。 <b>知</b> 裏返してぴったり重なる場合を含めて、合同の意味を理解している。
2	○頂点、辺、角について「対応する」の意味を知り、合同な図形の性質について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同な図形について、重なり合う頂点、辺、角を調べる。</li> <li>用語「対応する」の意味を知る。</li> <li>合同な図形の性質をまとめそれを用いて合同かどうかを判別する。</li> </ul> ☆定規・コンパス・分度器を正しく使って測定させる。	<b>考</b> 対応する辺の長さや角の大きさに着目して、合同な図形の性質について考え、説明している。 <b>知</b> 合同な図形は対応する辺の長さ、角の大きさが等しいことを理解している。
3	○平行四辺形やひし形を対角線で分割してできた三角形は合同であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>台形や平行四辺形、ひし形を 1 本の対角線で分割すると、どのような三角形ができるか考える。</li> <li>分割してできた三角形について、合同であるかどうか調べる。</li> </ul> ☆操作的活動を通して、平行四辺形やひし形は対角線で合同な二つの図形に分割できることを実感させる。	<b>知</b> 平行四辺形やひし形は、対角線の引き方に関係なく、分割してできた三角形は合同であることを理解している。
4	○合同な三角形をかくのに、すべての構成要素を調べる必要がないことを理解し、合同な三角形をかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の構成要素に着目して、合同な三角形のかき方を考える。</li> <li>頂点 D の位置の決め方について考える。</li> </ul> ☆一つの方法でかけた児童には、他の方法も考えさせる。	<b>考</b> 合同な三角形のかき方を考え、どの辺の長さや角の大きさを使ってかいたのかを説明している。 <b>技</b> 合同な三角形をかくことができる。
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>二辺夾角、二角夾辺、三辺のかき方で合同な三角形をかく。</li> <li>すべての構成要素を使わなくても合同な三角形がかけられることをおさえる。</li> </ul>	<b>知</b> すべての構成要素を使わなくても合同な三角形をかけることを理解している。
6	○三角形の形と大きさが決まる要素の違いをおさえ、合同な平行四辺形のかき方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同な三角形のかき方を基に、合同な平行四辺形のかき方を考える。</li> <li>三角形の場合と異なり、4 つの辺の長さだけでは形が決まらず、かけないことを知る。</li> </ul> ☆辺の長さは同じでも形は決まらないことを理解しやすくするために、模型を作り、演示する。	<b>考</b> 合同な三角形のかき方を基に、合同な平行四辺形のかき方を考え、説明している。 <b>技</b> 対角線で 2 つに分けて考えて、合同な平行四辺形をかくことができる。
<b>● まとめ 【3 時間】</b>			
7	○学習内容を適用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「力をつけるもんだい」に取り組む。</li> </ul>	<b>技</b> 学習内容を適用して、問題を解決することができる。
8	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「しあげのもんだい」に取り組む。</li> <li>観点別評価問題に取り組む。</li> </ul>	<b>技</b> 基本的な学習内容を身につけている。
9	○合同な図形についての理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おもしろ問題にチャレンジ!」に取り組む。</li> </ul> ☆ターレスの問題を紹介し、挑戦させることで、興味・関心を高めたり、生活への活用を促したりする。	<b>技</b> 学習内容を適用して、問題を解決することができる。

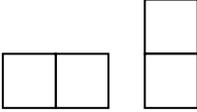
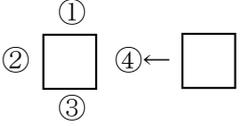
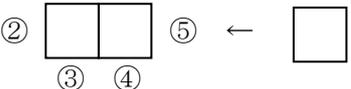
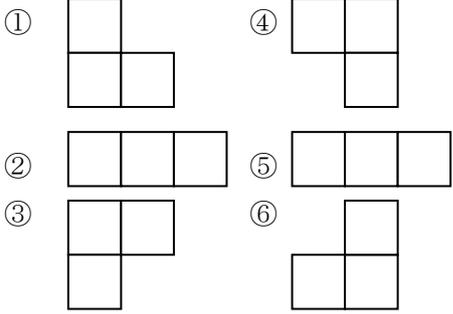
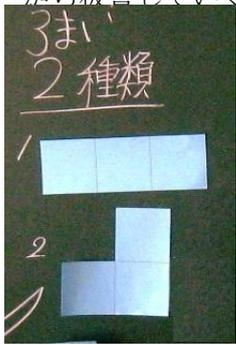
6-1. 本時の指導 (第1時)

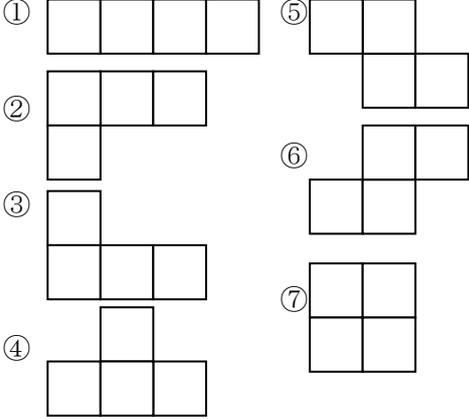
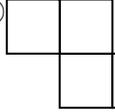
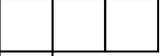
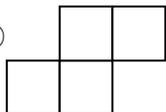
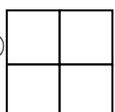
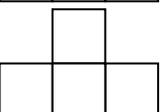
※プランA (教科書とは異なる問題を使用)

(1) 本時の目標

○ぴったりと重ね合わせることでできる2つの図形は合同であるという「合同の意味」理解する。

(2) 展開

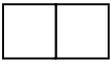
学習活動	T: 発問・指示 C: 児童の反応例	○留意点 ・手だて 【評価】
<p>問題を読み, 題意を考える。</p> <p>正方形が2枚の時の調べ方を考え, 説明する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>枚の正方形を組み合わせると, ちがう形は何種類できるでしょうか。</b></p> <p>C: 2枚だと長方形になる。 C: どうやって並べても, 同じ長方形しかできない。</p>  <p>T: この2つの形は同じ形ですか? C: 動かしたらぴったり重なるから同じ形です。</p> 	<p>○正方形の色紙を示し, 活動のイメージを共有させていく。 ○向きが違っていても同じ形であることを確認する。 ○4つの辺にもう一方の正方形を順序よく組み合わせていけば確実に調べられることを説明する。</p> 
<p>3枚の正方形を組み合わせると, 何種類の形ができるかを調べる。</p>	<p>T: 3枚の正方形を組み合わせると, 何種類の形ができるでしょうか。 C: 2つを固定し, もう1枚を順序よく組み合わせて6つの形を作る。 C: 直感的に並べ, 2つの形を作る。</p>	<p>○正方形はたくさん用意しておく, 必要に応じて取りに来るよう指示する。 ○正方形2枚の時の考え方を活用している児童を賞賛する。 <b>活用力①学習したことの活用</b></p>
<p>調べて分かったことを発表する</p>	<p>C: ① ⑥</p>  <p>この順に並べると, 6種類できる。</p>  <p>C: ②⑤, ①③④⑥は同じ形です。 T: 本当に同じ形ですか。 C: 回したらぴったり重なるから同じ形です。 T: ぴったり重なる図形を「合同」と言います。</p>	<p>○児童の発言に合わせて整理しながら板書していく。</p>  <p>○問い返すことで, 「回したらぴったり重なる」という言葉を児童から引き出す。 ○「合同」という用語をこの時点で伝え, 児童にも使わせていく。</p>

自力解決	4枚の正方形を組み合わせると、何種類の形ができるかを調べる。	T: 4枚の正方形を組み合わせると、何種類の形ができるでしょうか。 C: 順を追って考えようとする。	○見つけた形はノートに記録するよう指示する。 【関】これまでの学習を生かして、形も大きさも同じ図形を見つけようとしている。 (観察)
話し合い	調べて分かったことを発表する	 <p>①  ⑤   ②  ⑥   ③  ⑦   ④ </p> <p>C: ③と④, ⑤と⑥は裏返せばぴったり重なるから合同だと思ふ。</p>	○これまでの学習を活用している児童を賞賛する。 <b>活用力①学習したことの活用</b>  ○裏返せば重なる図形については、意見が分かれることが予想される。話し合いが続く場合は途中でうち切り、教師が「合同の定義」を説明する。 ○正方形4枚の場合は、5種類の形ができることを確認する。
まとめ	「合同」の定義を声に出して言う	T:ぴったり重ね合わせることでできる図形を合同と言います。	○何度も繰り返し声に出して読み、淀みなく言えるようになってから、ノートに書くよう指示する。 <b>基礎・基本</b>
適応問題	問題を読み、題意をとらえる。  自分の考えた方法で、㊦と形も大きさも同じ図形を見つかる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">㊦と同じ形を㊧～㊨の中から見つけましょう。</div> <p>C: 自分の選んだ方法で見つけようとしている。 C: どうしたらいいのかわからない。 →T: P.129の図形を切り取って調べるよう指示する。 →T: 薄い紙に写して比べよう話す。 →T: ㊦の辺の長さや角の大きさを知らせ、測定して比べよう促す。</p>	○見た目ではわからない時には、どうやって比べたらいいかを考えさせてから取り組ませる。 ○児童の選んだ方法に応じて、p.129の図形を切り取らせたり、薄い紙を配ったりする。 ○早く終わった児童には、ぴったり重ならなかった図形は、どこがどのようにちがっていたのかを考えさせる。
	適用問題△△に取り組む。	C: 見た目だけで考え、相似形も含めている。 →T: 辺の長さを測定させる。	○時間がなければ家庭学習にする 【知】合同の意味を理解している。(ノート) <b>活用力②生活への活用</b>
振り返り	学習の見通しをもち、学習感想を書く。	C: 正方形が5枚だと何種類の形が作れるかやってみよう。 C: 合同な形の書き方を知りたい。 C: もっと合同な形を見つけないか。	○「合同マイスターへの道」を配り、今後の学習を簡単に話す。 ○自己評価やこれから学習したいことを書くよう指示する。

(3) 板書計画

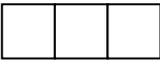
○枚の正方形を組み合わせると、ちがう形は何種類できるでしょう。

○2枚…1種類

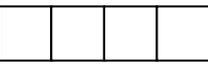


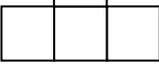
⑤ 

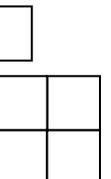
○3枚…2種類




○4枚…5種類







ぴったり重ね合わせることでできる図形を**合同**と言います。

6/22

○まいの正方形を組み合わせると  
ちがう形は何種類できるでしょう。

ぴたりと重ね合わせるとできる  
図形を **合同** という。

1まい  
1種類



どちらも  
正方形

2まい  
1種類



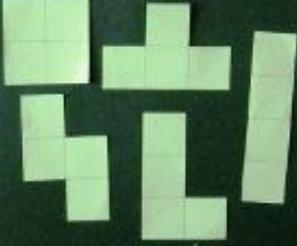
向きがかわっても  
同じ形

合同

3まい  
2種類



4まい  
1種類



うらがえし重ねる形  
合同



6-2. 本時の指導 (第1時)

※プランB (算数的活動→教科書)

(1) 本時の目標

○ぴったりと重ね合わせることでできる2つの図形は合同であるという「合同の意味」を理解する。

(2) 展開

学習活動		T: 発問・指示 C: 児童の反応例	○留意点 ・手だて 【評価】
問題把握	カード合わせゲーム①を行う	T: 自分のカードと形も大きさも同じ図形を探しましょう。同じカードは2枚ではありません。3枚か4枚あります。できるだけたくさんカードを探しましょう。 C: カードを重ねて同じ形を探す。	○三角形に切り取ったカードをランダムに配る。同じ形でも色を変えておくことで、見た目だけでは区別できないようにする。裏返せば重なる形も入れておく。
		T: 同じ形をどうやって見つけましたか。 C: カードを重ねて比べました。 C: 同じ形のものはカードがぴったり重なりました。 C: 裏返せば重なる形は同じ形とは言えないと思う。 T: 裏返して重なるものも、入れていいことにします。	○直接比較(実際に重ね合わせる)をすれば、形や大きさの同じ形かどうか見分けられることを確認する。 ○裏返せば重なる図形については、意見が分かれることが予想される。話し合いが続く場合は短く打ち切り、教師が説明する。
自力解決	カード合わせゲーム②を行う。	T: 今度は三角形に切り取っていません。どうすれば形も大きさも同じものを見つけられるでしょうか。 C: 長さを測る。 C: 紙を重ねてすかしてみる。 C: 自分で考えた方法で取り組んでいる。 C: 見つけることができない。 →T: 薄い紙に形を写して重ねてみるよう指示する。	○三角形の書いてある紙を配る。切り取っていないため、直接比較ができない。切り取らずに比較する方法を引き出す。  【関】自分の選んだ方法で、形も大きさも同じ図形を見つけようとしている。(観察)
話し合い	調べて分かったことを発表する。	T: どうやって同じ形を見つけたか。 C: 長さを測りました。 C: 角度を測りました。	○直接比較だけでなく、間接比較や測定でも形や大きさの同じ三角形を見分けることができることを確認する。
まとめ	「合同」の定義を声に出して言う。	T: ぴったり重ね合わせることでできる図形を合同と言います。	○何度も繰り返し声に出して読み、淀みなく言えるようになってから、ノートに書くよう指示する。 <b>基礎・基本</b>

適用問題	<p>問題を読み, 題意をとらえる。</p> <p>自分の考えた方法で, ㊸と形も大きさも同じ図形を見つける。</p> <p>調べて分かったことを発表する。</p>	<p style="text-align: center;"><b>㊸と同じ形を㊹～㊻の中から見つけましょう</b></p> <p>C: 自分の選んだ方法で見つけようとしている。 C: どうしたらいいのかわからない。 →T: p.129 の図形を切り取って調べるよう指示する。 →T: ㊸の辺の長さや角の大きさを知らせ, 測定して比べよう促す。 T: どうやって見つけましたか。 C: ㊸は㊹と重なったから同じ形。㊺は裏返せば重なる。 C: ㊻は㊸の辺の長さが違う</p>	<p>○カード合わせゲームで学んだことを活用して取り組ませる。 <b>活用力①学習したことの活用</b> ○児童の選んだ方法に応じて, p.129 の図形を切り取らせたり, 薄い紙を配ったりする。 ○早く終わった児童には, ぴったり重ならなかった図形は, どこがどのようにちがっていたのかを考えさせる。 ○できるだけ多くの児童に説明させる。</p>
	適用問題△△に取り組む。	<p>C: 見た目だけで考え, 相似形も含めている。 →T: 辺の長さに着目させる。</p>	<p>○時間がなければ家庭学習とする <b>【知】</b> 合同の意味を理解している (ノート) <b>活用力②生活への活用</b></p>
振り返り	<p>学習の見通しをもち, 学習感想を書く。</p> <p>C: 合同な形のかき方を知りたい。 C: 三角形や四角形以外の図形でもやってみたい。 C: もっと合同な形を探したい</p>	<p>○「合同マイスターへの道」を配り, 今後の学習を簡単に話す。 ○自己評価や今日の学習で分かったこと, これから学習したいことを書くよう指示する。</p>	

(3) 板書計画

形も大きさも同じ図形を見つけてみましょう。

<わかったこと>

- 重ねればわかる。
- 長さを測ればわかる。
- 薄い紙に写してもわかる。

子どもたちが見つけた  
合同な図形のカード

㊸～㊻の四角形

ぴったり重ね合わせることで  
できる図形を**合同**といいます。

裏返して重なるものも OK    形が同じでも大きさが違うものは×



6-3. 本時の指導 (第1時)

※プランC (教科書→算数的活動)

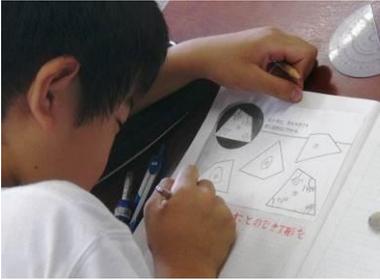
(1) 本時の目標

○ぴったりと重ね合わせることのできる2つの図形は合同であるという「合同の意味」を理解する。

(2) 展開

学習活動		T: 発問・指示 C: 児童の反応例	○留意点 ・手だて 【評価】
問題把握	問題を読み, 題意を考える。 形も大きさも同じ図形を見つける方法を考える。	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">⑦と形も大きさも同じ図形を, ①~⑥の中から見つけましょう。 また, ④と同じ図形を⑦~⑥の中から見つけましょう。</p> <p>T: 形も大きさも同じ図形を見つける方法を考えましょう。 C: ⑦や④を切り取ったり, 薄い紙に移したりして重ねる。 C: 辺や角を測って調べる。</p>	<p>○児童の様子によって, 2つの問題を同時に行わず, 1問ずつ解いていく。 ○複数の方法を引き出す。児童から出てこなければ教師が例示する。</p>
自力解決	自分の考えた方法で, 形も大きさも同じ図形を見つける。	<p>C: 自分の選んだ方法で見つけようとしている。 C: どうしたらいいのかわからない。 →T: p.129の図形を切り取って調べるよう指示する。 C: 裏返してもいいのかどうか迷っている。 →T: とりあえず仮の意見をもたせ, 他の図形も検討するよう促す。</p>	<p>○児童の選んだ方法に応じて, 薄い紙を配ったりする。 ○できるだけ複数の比べ方に挑戦させる。 ○早く終わった児童には, ぴったり重ならなかった図形は, どこがどのようにちがっていたのかを考えさせる。 【関】自分の選んだ方法で, 形も大きさも同じ図形を見つけようとしている。(観察)</p>
話し合い	調べて分かったことを発表する。	<p>C: ⑦と④は辺の長さが同じだった。 C: ①は回転したらぴったり重なった。 C: ⑦は裏返せば重なった。 C: 裏返したら同じ形とは言えないと思う。 C: ④は辺の長さや角の大きさが違う。 C: ④は形は同じだけど大きさが違う。 C: ④は⑦と重なったから同じ形。⑦は裏返せば重なる。 C: ⑦④は辺の長さが違う。</p>	<p>○できるだけ多くの児童に説明させる。 ○⑦や④のように, 裏返せば重なる図形については, 意見が分かれることが予想される。話し合いが続く場合は途中でうち切り, 教師が「合同の定義」を説明する。</p>
まとめ	「合同」の定義を声に出して言う。	T: ぴったり重ね合わせるることのできる図形を合同と言います。	<p>○何度も繰り返し声に出し読み, 淀みなく言えるようになってから, ノートに書くよう指示する。 <b>基礎・基本</b></p>
適応問題	カード合わせゲームを行う。	<p>T: どうすれば形も大きさも同じものを見つけられるでしょうか。これまでの学習を生かしてやってみましょう。 C: 自分で考えた方法で見つけようとする。 C: 見つけることができない。 →T: 薄い紙に形を写して重ねてみるよう指示する。</p>	<p>○三角形の書いてある紙を配る。これまでに学習した方法を生かして取り組ませる。 <b>①学習したことの活用</b></p>



	<p>適用問題△△に取り組む。</p>	<p>C：見た目だけで考え，相似形も含めている。 →T：辺の長さを測定させる。</p> 	<p>○時間がなければ家庭学習にする 【知】合同の意味を理解している。 (ノート) <b>活用力②生活への活用</b></p>
<p>振り返り</p>	<p>学習の見通しをもち，学習感想を書く。</p>	<p>C：合同な形のかき方を知りたい。 C：三角形や四角形以外の図形でもやってみよう。 C：もっと合同な形を見つけない。</p>	<p>○「合同マスターへの道」を配り，今後の学習を簡単に話す。 ○自己評価や今日の学習で分かったこと・これから学習したいことを書くよう指示する。</p>

### (3) 板書計画

⑦や⑧と形も大きさも同じ図形を見つけましょう。

<見つけ方>

- 切り取って重ねてみる。
- 長さを測る。
- 薄い紙に写す。

⑦～⑧の三角形

⑨～⑩の四角形

ぴったり重ね合わせることで  
できる図形を**合同**といいます。

裏返して重なるものも OK    形が同じでも大きさが違うものは×

